

研修会概要

主催：

一般社団法人 **日本難病・疾病団体協議会**
長崎県難病相談・支援センター
 令和4年度厚生労働省補助事業

講師：

高橋宜盟 (たかはし よしあき)
 有限会社 オフィス結アジア

日時：

2022年9月1日 (木)
研修会 10:30~12:00
 定員：**15名**

参加費：**無料**

場所：**長崎県難病相談・支援センター**

対象者：

ALSや筋ジストロフィーなどの神経難病に関わる医療関係者で、ICTを使ったコミュニケーション支援やアクセシビリティに関心のある方。

お申込・お問合せ先

長崎県難病相談・支援センター

Tel. **095-846-8620**

メール info@nagasaki-nanbyou.gr.jp

お申し込みは電話かメールで。
(定員に達し次第締切)

支援者のための

指伝話とアクセシビリティ講座

できないことではなくて、できることを増やしていこう！

難病になり体を自由に動かせなくなってきて「日々できないことが増えていく」と不安に思うかもしれません。でもそうではなくて「やり方が変わっていく」だけなのです。

例えば、歳をとって新聞が読みづらくなったら、メガネをかけたり、ネットでニュースページを大きい字でみたり、音声で聞いたり、手段を変えれば解消できるかもしれません。

部屋の電気をつけるために壁のスイッチまで行って操作するのが難しいなら、リモコンを使えば楽になります。それは病気だから使うと便利ということではなく、実は誰にとっても生活をより快適にするための方法でもあります。

iPadの操作は、一般的に知られている指で画面をタップする方法だけではなく、身体のわずかな動きを使ってスイッチで操作する、画面が見つらい場合は音声で聞いて操作したり、指で画面に触れて操作する、視線入力装置を使って目の動きで操作する、身体が動かせなくても声が出せれば音声で操作するなど、さまざまな方法が用意されています。それがiPadのアクセシビリティ機能です。

アクセシビリティ機能を活用することで、身体のわずかな動きを使って流暢な合成音声を使って話したり、音楽をかけたりメッセージを送ったり、テレビ電話をしたりすることができます。病気や障害で体が動かしづらい方にも**できることを増やしていく**方法がいろいろあります。

指伝話の機能を活用すると、それらの操作をさらに簡単に使うことができるようになります。指伝話の活用方法についても詳しくお伝えします。

夢を実現する方法は一つではない、いろいろな方法がある、それを選ぶ自由がある、そして選ばない自由もあることを一緒に考えるアクセシビリティ研修会です。

実際にお使いの方の事例を織り交ぜながら紹介します。



アクセシビリティ・参考テキスト

